



## 虹のつくり方

2026年3月14日（土）－9月6日（日）



図1. ジャクソン・ポロック 《黒、白、茶》 1952年 キャンバスに油彩 91 x 70 cm

### 【展覧会概要】

東京・品川の閑静な住宅街。その一画にあったかつての原邸。鬱蒼とした樹々の深い緑に囲まれたモダニズム建築を舞台に、1979年、原美術館はスタートしました。

現代美術に魅せられた創設者の原俊夫は、1970年代半ばより、自らの感性で作品を選び収集し続けています。可能なかぎり作家に会いに行き、親交を深めながら、一人のコレクターの視点に基づき集められたそれは、世界のどこにもない、唯一無二のコレクションです。

「虹のつくり方」と題した本展では、そのコレクションの中から、1979～1990年の原美術館の活動にスポットを当て、作品を展示します。仮に「原美術館創成期」と名付けるこの時期は、日本における現代美術館の先駆けとして現代美術の普及を目指し、世界的な作家の個展開催のほか、日本の若手作家に発表の場を提供する意欲的なグループ展「ハラ アニユアル」を開催しました（1980～1990年、全10回、出品作家97名）。さらに、1980年にジャン=ピエール レイノー、1989年に宮島達男が旧邸宅ならではの空間を活かした常設インスタレーションを制作し、原美術館らしさを特徴づける作品となって行きました\*。

1988年には、現代美術作品の大型化に伴い、新たな展示空間として群馬県渋川市に別館ハラ ミュージアムアーク、現在の原美術館ARCが開館しました。

当館を運営する財団の名称「アルカンシエール（Arc-en-Ciel）」は日本語で虹という意味です。また現館名である「原美術館ARC」の「ARC（アーク）」は、「Arc-en-Ciel」の綴りから引用したもの。人と人が、人種を越え、国境を越え、美術を通じて対等に交流する架け橋のような存在であるため、当館は今日まで走り続けています。

この展覧会を通じて、原美術館が原美術館“ARC”という虹に至るまでの軌跡を皆さんと一緒に辿ることができましたら幸いです。なお、本展「虹のつくり方」から始まり今後3年間、毎年春夏季に、原美術館開館以来の歴史を追う、収蔵作品を用いた展覧会を開催予定です。

\* 現在、ジャン=ピエール レイノー 《ゼロの空間》は原美術館ARC開架式収蔵庫に、宮島達男 《時の連鎖》はギャラリーBに移設



## 【本展の構成】

### 1. 会いに行く美術ー「私は作家に会いに行くことから始めた」(ギャラリーC)

1970年代半ばより、当館理事長の原俊夫によって収集され続けている作品の数々。可能なかぎり作家に「会いに行き」、親交を深めながら、一人のコレクターの視点に基づき集められたそれらは、世界のどこにもない、唯一無二のコレクションです。ギャラリーCでは、原俊夫が作家と直接交渉し入手した作品や、原美術館の開館最初期に収蔵された作品を展示します。

#### □ 出品作家（予定）

カレル アペル、アルマン、ペーター クラゼン、工藤哲巳、三木富雄、ジャック モノリー、ケネス ノーランド、ナム ジュン パイク、ジャクソン ポロック、ジェームス ローゼンクイスト、篠原有司男、李禹煥、トム ウェッセルマン

### 2. そこに行けば会える美術ー世界の今がここに（ギャラリーB）

1979年、まだ日本には現代美術の専門館が少なかった時代に、その先駆けとして開館した原美術館は、一般の美術愛好家にとって、現代美術、作家、美術関係者に、「そこに行けば会える」場所だったと言えるのではないでしょうか。ギャラリーBでは、クリスト、ロバート メイプルソープ、ジャン=ピエール レイノーなど、創成期の原美術館で個展が開催された世界的な作家の作品を展示します。

#### □ 出品作家（予定）

クリスト、今井俊満、ピョートル コワルスキ、ロバート メイプルソープ、ロバート ラウシェンバーグ、ジャン=ピエール レイノー、キース ソニア

### 3. ハラ アニユアルの作家たちー若い作家に発表の場を（ギャラリーA）

1980年から10年間、原美術館は日本の若手作家に発表の場を提供する意欲的なグループ展「ハラ アニユアル」を開催しました。全10回、97名が参加し、多くの作家がそこから羽ばたいて行きました。ギャラリーAではその中から、11名の作品を展示します。

#### □ 出品作家（予定）

遠藤利克、出射茂、笠原恵実子、菊谷直美、小清水漸、中村一美、坂口登、柴田耕作、須田基揮、菅野由美子、吉田克朗

## 【常設展示、屋外作品の出品作家・作品】

オラファー エリアソン《Sunspace for Shibukawa》、草間彌生《ミラールーム（かぼちゃ）》、ソル ルヴィット《不完全な立方体》、三島喜美代《Newspaper-84-E》、宮島達男《時の連鎖》、森村泰昌《輪舞（双子）》、奈良美智《My Drawing Room》、ジャン=ミシェル オトニエル《Kokoro》、鈴木康広《日本列島のベンチ》、東芋《真夜中の海》、李禹煥《関係項》、アンディ ウォーホル《キャンベルズ トマト スープ》など



# HARA MUSEUM ARC

**【関連イベント（予定）】** \*イベントの詳細は当館公式web「イベント」ページにて随時お知らせいたします。

□ プレス向けガイドツアー

2026年3月18日（水）11:00～（60分程度）

□ 展覧会「虹のつくり方」ギャラリーガイドツアー 有料

春の回 2026年4月11日（土）10:30～（60分程度）

梅雨の回 2026年6月13日（土）10:30～（60分程度）

夏の回 2026年8月8日（土）10:30～（60分程度）

展覧会の担当学芸員によるギャラリーガイドツアー。参加者はもれなく、開架式収蔵庫（通常非公開のお部屋です）にある、品川の原美術館で常設展示されていた、ジャン=ピエール レイノー《ゼロの空間》をご見学いただけます。

**【開催要項】**

**虹のつくり方**

会期 2026年3月14日（土）から9月6日（日）

主催 原美術館 ARC

会場 原美術館 ARC 現代美術ギャラリーA、B、C

開館時間 9:30 am—4:30 pm（入館は4:00 pmまで）

休館日 木曜日（8月中無休）

入館料 【「安藤正子：普通の日々」と共通チケット】

一般 1,800円、大高生 1,000円、小中生 800円、70歳以上 1,500円

\*前売りオンラインチケット（日にち指定）[https://e-tix.jp/haramuseum\\_arc/](https://e-tix.jp/haramuseum_arc/)

\*原美術館 ARC メンバーシップ会員は無料、学期中の土曜日は群馬県内小中学生無料

住所 〒377-0027 群馬県渋川市金井 2855-1

Tel: 0279-24-6585 / Fax: 0279-24-0449

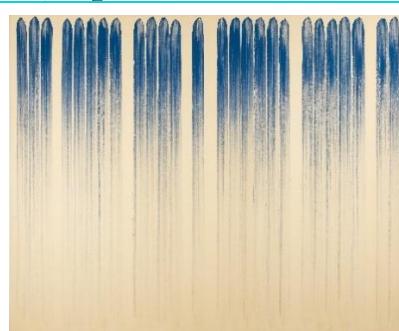
E-mail: arc@haramuseum.or.jp

ウェブサイト: <https://www.haramuseum.or.jp>

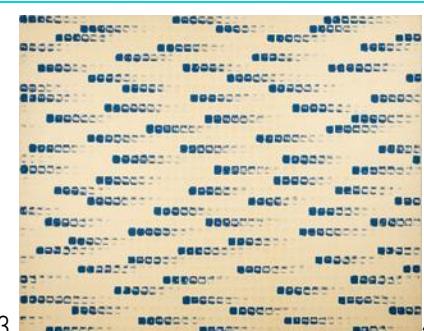
X: @haramuseum\_arc

Instagram: @haramuseumarc

**【その他の広報用図版およびクレジット】**



2



3

4

# HARA MUSEUM ARC



5

図 2. 旧原邸（原邦造邸）竣工時写真 1938 年

図 3. 李禹煥《線より》1979 年 キャンバスに顔料 181 x 227 cm ©Lee Ufan

図 4. 李禹煥《点より》1979 年 キャンバスに顔料 181 x 227 cm ©Lee Ufan

図 5. 吉田克朗《触“体-27”》1989 年 麻布に黒鉛、木炭、アクリル絵具、油絵具、顔料 194 x 259 cm ©The Estate of Katsuro Yoshida, Courtesy of Yumiko Chiba Associates

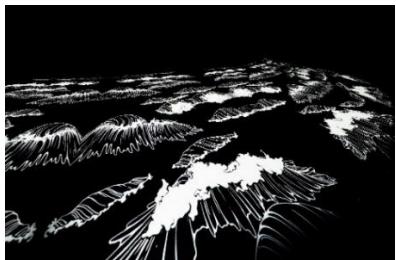
## 【常設展示、屋外作品】



6



7



8



9



10

図 6. 宮島達男《時の連鎖》1989/1994/2021 年 発光ダイオード、IC、電線 22 x 475 x 4.7 cm / 22 x 237.5 x 4.7 cm ©Tatsuo Miyajima

図 7. 奈良美智《My Drawing Room》2004/2021 年 312.0 x 200.5 x 448.0 cm ©Yoshitomo Nara

図 8. 東芋《真夜中の海》2006/2008 年 ビデオインсталレーション ©Tabaimo

図 9. オラファー エリソン《Sunspace for Shibukawa》外観 2009 年 ステンレス、ガラスプリズム ©2009 Olafur Eliasson

図 10. 草間彌生《ミラールーム（かぼちゃ）》1991/1992 年 ミクストメディア 200 x 200 x 200 cm ©YAYOI KUSAMA

\*草間彌生「ミラールーム（かぼちゃ）」（図 10）の図版掲載については、当館への掲載依頼後、別途各媒体から著作権保有団体への著作権使用許可申請が必要です。掲載をご希望の場合は、まずは当館までご連絡ください。

### 展覧会「虹のつくり方」

お問合せ先: 学芸部 岩村（本展担当）、山川、坪内

E-mail: press@haramuseum.or.jp Tel: 0279-24-6585 Fax: 0279-24-0449

# HARA MUSEUM ARC

## 【原美術館 ARCについて】

原美術館 ARC は、現代美術の専門館である原美術館(東京・品川、1979–2021)と別館ハラ ミュージアム アーク(群馬・渋川、1988–)の活動を集約し、2021 年 4 月に始動しました。青い空と深い緑に抱かれた豊かな環境での美術体験を特長としています。

「原美術館コレクション」は、運営母体である公益財団法人アルカンシェール美術財団理事長の原俊夫が財団設立時より収集した 1950 年代以降の世界の現代美術コレクションです。抽象表現主義やポップアートなど、20 世紀美術を彩った巨匠の絵画や彫刻から現在のアートシーンで活躍する作家の写真や映像作品まで多種多様な表現を網羅しています。

明治の実業家・原六郎(1842–1933)が収集した近世日本絵画、工芸、中国美術などを「原六郎コレクション」として所蔵しています。なかでも中国陶磁の真髄を伝える国宝「青磁下蕪花瓶」や浮世絵美人図の先駆けとなる重要文化財「繩暖簾図屏風」、円山応挙の大作画卷「淀川両岸図巻」、永徳ほか狩野一門による「三井寺旧日光院客殿障壁画」が代表作です。

建築は、「建築界のノーベル賞」と称されるプリツカー賞を受賞した磯崎新(1931–2022)が手がけました。榛名山の峰々と呼応するピラミッド型の屋根が印象的なギャラリー A と前庭に向かい両翼を広げるギャラリー B、C は、現代美術作品の映える端正な空間です。一方、滋賀県・三井寺(園城寺)の旧日光院客殿の書院造に想を得て 2008 年に増築された特別展示室「観海庵(かんかいあん)」は、内部のいたるところに名工の技が光る静謐な和風空間です。

広々とした庭ではアンディ ウォーホル、オラファー エリアソン、李禹煥やイサムノグチなど、国内外のアーティストによる屋外作品を鑑賞しながらの散策もお楽しみいただけます。

開架式収蔵庫に保管している一部の原美術館コレクションは、学芸員や評論家、教育・研究機関に所属する方など主に美術の専門家を対象に作品の鑑賞・調査が可能となっています。また、原美術館 ARC メンバーの方には、毎月 1 回の庫内ガイドツアーを行っています。

大きな窓と高い天井が心地よいカフェ ダールでは、群馬県産の新鮮な食材を活かした特製サンドイッチやパスタなどのお食事や、丁寧にハンドドリップで淹れたコーヒーなどをご用意。展示作品をイメージした「イメージケーキ」もお召し上がりいただけます。

ザ・ミュージアムショップでは、当店オリジナル商品をはじめ、展覧会カタログや関連書籍、アーティストグッズ、デザイン小物やアクセサリーなど、現代美術を暮らしに取り入れ、お楽しみいただける商品を取り揃えています。日本の伝統技術を感じさせるモダンな商品や、群馬県ゆかりの作家を紹介するなど、お土産やギフト、旅の話題を探すにもぴったりです。

原美術館 ARC では、メンバーシッププログラムを設けています。会員証のご提示で無料入館やカフェ、ミュージアムショップでの割引が適用される他、開架式収蔵庫ツアーなどのメンバー限定イベントへのご招待も。当館の活動をサポートしながら、様々な角度からアートを体験するプログラムにぜひご参加ください。

<https://www.haramuseum.or.jp/jp/membership/>



原美術館 ARC 外観



特別展示室 觀海庵 内観



開架式収蔵庫



カフェ ダール メニュー例



ザ・ミュージアムショップ オリジナルグッズ



開架式収蔵庫ツアーの様子

## 【交通案内(2026年1月現在)】

### ■電車利用の場合

★JR「高崎駅」西口より原美術館ARC行き直通バスにて約1時間(毎週第一土曜日運行)。

※2025年度。2026年度は運行スケジュールが変更される可能性がございます。

東京駅・上野駅からJR「高崎駅」にて、上越／吾妻線乗り換え、「渋川駅」より関越交通バス「伊香保温泉」または「伊香保榛名口」行き(3番のりば)にて約15分、「グリーン牧場前」下車、徒歩約7分。または「渋川駅」よりタクシーで約10分。

【JR乗換案内例】 \*2026年1月現在。ご利用の際は時刻表をお確かめください。

上越・北陸新幹線(平日・土休日)

<はくたか 553号>

東京駅 7:52発→高崎駅 8:42着／8:53発[吾妻線 大前行]→渋川駅 9:19着／9:25発 関越交通バス[伊香保榛名口行]→グリーン牧場前 9:40着

<とき 317号>

東京駅 10:41発→高崎駅 11:32着／11:44発[吾妻線 長野原草津口行]→渋川駅 12:08着／12:14発 関越交通バス[伊香保温泉行]→グリーン牧場前 12:29着

特急「草津・四万」

<草津・四万 31号> \*土休日のみ運行

上野駅 9:00発→渋川駅 10:39着／10:55発 関越交通バス[伊香保温泉行]グリーン牧場前 11:10着

<草津・四万 1号>

上野駅 10:00発→渋川駅 11:36着／11:42発 関越交通バス[伊香保榛名口行]グリーン牧場前 11:53着

<草津・四万 3号>

上野駅 12:10発→渋川駅 13:50着／13:55発 関越交通バス[伊香保榛名口行]グリーン牧場前 14:06着

### ■高速バス利用の場合

関越交通バス \*詳細は関越交通バスのサイトでご確認ください。 <https://kan-etsu.net>

・伊香保四万温泉号 羽田線

羽田エアポートガーデン～東京駅～伊香保温泉～四万温泉

\*伊香保グリーン牧場前下車 \*2025年11月1日～2026年5月6日まで運行

・吉祥寺-草津温泉線(草津よいとこライナー) \*渋川駅にて路線バスに乗り換え、伊香保グリーン牧場前下車

・四万温泉号 東雲車庫～東京駅～四万温泉 \*渋川駅にて路線バスに乗り換え、伊香保グリーン牧場前下車

JRバス \*詳細はJRバス関東のサイトでご確認ください。 <http://time.jrbuskanto.co.jp/>

・上州ゆめぐり号 新宿駅↔渋川駅・伊香保・草津温泉

・ゆめぐり八王子号 八王子駅↔渋川駅・伊香保・草津温泉

・ゆめぐり千葉号 千葉駅↔渋川駅・伊香保・草津温泉

\*すべて渋川駅にて路線バスに乗り換え、伊香保グリーン牧場前下車

### ■お車の場合

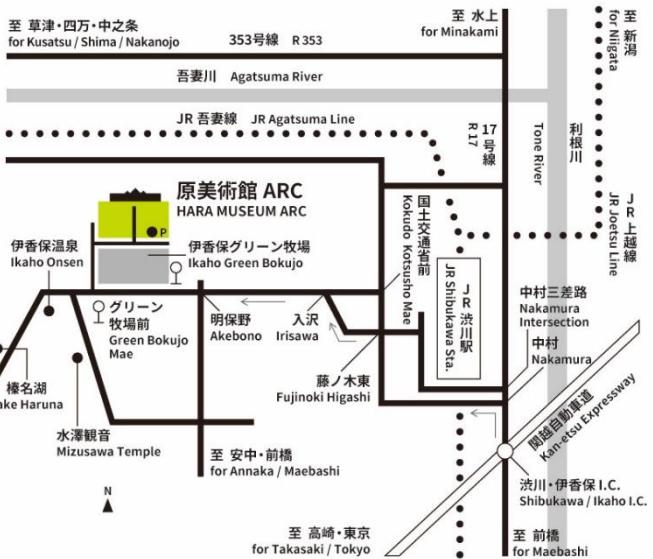
関越自動車道「渋川・伊香保I.C.」より8km、約15分。(無料駐車場46台、大型バス駐車場2台)

### ■ヘリコプターの場合

東京ヘリポート→伊香保温泉長峰ヘリポート 約35分、伊香保温泉長峰ヘリポートから当館までタクシーで片道約10分。

\*詳細は各ヘリコプターチャーター会社へお問い合わせください。

# HARA MUSEUM ARC



## 【同時開催】



安藤正子《ニューノーマル》2024年 陶土、釉薬 サイズ可変  
©Masako Ando

## 安藤正子:普通の日々

会場 原美術館 ARC 特別展示室 觀海庵

原美術館(東京・品川)において鉛筆画と油彩画の個展「おへその庭」を開催してから14年。安藤正子の現在地を観る展覧会。

- \* 展覧会「虹のつくり方」と同じチケットでご覧いただけます。
- \* 詳細は別途プレスリリースをご参照ください。